



二十六聖人

令和3年12月号

(令和3年11月28日発行)

教会だより

2021. 12 No. 342

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296
<http://www.futamatagawa-cc.com/>
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

あなたの光のうちにわたしたちは光を見る

小学生の時、「自然」という科目の授業の中で、初めてプリズムという科学器具に接しました。その体験の印象はとても強くて、今も頭の中に鮮明に残っています。太陽の日差しがその小さな器具を通じて虹のような光を放つのは、何と面白くて不思議なことでしょう。太陽から放たれる日差しは透明なものなのに、その透明な光の中にいろいろな色が隠されているかのような思いもありました。その実験の後、今度は「美術」の授業で、「色の三原色」と「光の三原色」について学びながら、わたしはもう一度、びっくりしました。なぜなら、色の三原色を混ぜたら黒となり、光の三原色を混ぜたら透明になるという話を聞いたからです。その話を聞きながら、わたしはプリズムのことを思い起こし、光の不思議さについて考えるようになったのです。

もう12月になりました。新型コロナウイルス感染症の状況も、もうすぐ満2年になりそうです。この感染症の状況でなければ、世の中は年末年始の雰囲気ではぎわうはずですが、今年も自粛の雰囲気で過ごさなければならぬと思います。教会もクリスマスの準備で色々忙しくなりますけれども、今年のクリスマスも去年と同じく、静かなクリスマスになるでしょう。でも、このような静かなクリスマスは、むしろ、わたしたちの信仰を強めてくれる恵みの時間となると思います。確かに、この感染症は、今までのわたしたちのクリスマスを振り返らせているような気がします。実に、わたしたちは年ごとに間違いなく訪れるその日のために様々なことをやってきました。黙想会を始め、馬小屋とクリスマスツリーの準備、子供たちの聖劇やパーティなどなど。それはいわば、「年間行事」のようで、そういう準備によって、クリスマスは無事に迎えることができるかもしれませんが、わたしたち一人一人の新たな誕生はどうなって来たのかという思いがします。わたしたちの再誕生がなければ、クリスマスのための様々な準備は意味もないことでしょう。

ここでわたしは、世界の初めのクリスマスに向かって、遠い道をたどってきた三人の博士たちと、自分の宮殿で邪悪な企みを企てていたヘロデのことを考えてみます。博士たちは新しい星に導かれて旅をはじめ、エルサレムまでやってきてヘロデと会いました。その時、その四人の瞳を想像してみましよう。博士たちの瞳は希望の光で輝いていましたが、ヘロデの瞳は不安と憂いで暗くなっていたはずで、ヘロデからメシアの誕生に関する情報を聞いた博士たちは旅を続け、再びあの星の光に導かれましたが、ヘロデはその星なんて見たくなかったでしょう。星の導きに導かれた博士たちは、その旅の果てで貧しい夫婦の赤ちゃんを見つけました。その時、彼らの瞳は一瞬揺れたかもしれませんが、なぜなら、自分たちの思いとは全然違う風景を目にしたからです。暗くて家畜のにおいがする馬小屋、そして、飼い葉おけの中で寝ている赤ちゃん。誰が見ても、これはメシア、或いは、新しい王の姿とは言えない様子に違いありま

せん。しかし、博士たちはその赤ちゃんこそ、「あの星を輝かせている真の光である」と信じました。そして、その光を心に留め、また、それを守ることができたのです。一方、自分の王権と権力に目がくらんだヘロデはそれを守るため、ベツレヘム一帯の赤ちゃんたちを殺害しましたが、それは結局、自分の暗闇を守るだけのことに過ぎないことでした。

神様が造られた光によって、わたしたちは自然万物のそれぞれの形と色を見ることができます。そして、様々な色や物で、世の中を輝かせようとしています。でも、わたしたち人間が造った色は全部混ぜても、結局黒でしょう。神様が造られた光は全部混ぜたら透明となります。その透明な光によって、神様は全てのをありのまま照らしてくださいます。そして、その一つ一つに同じ愛を注いでくださいます。その一つ一つのため、ご自分の独り子を世に遣わされたのです。それがクリスマスでしょう。

真のクリスマスとは、わたしたちがイエス様と共に新たに生まれることです。それは、神様の独り子でありながらも、その栄光をすべて捨てたイエス様のようになることです。イエス様はまことの愛の光として来られ、わたしたちがその光ですべての物、すべての人を見られるようにしてくださいました。わたしたちが新たに生まれることは、自分の偏見と我執、独善と傲慢、冷たい知識と塵のような経験への執着の暗闇から出て、神様から遣わされたイエス様の愛の光で照らされることです。その時、わたしたちは神様が与えてくださった人々の姿をありのまま見るできるようになります。その時、わたしたちはその人々を素直に愛することができるようになります。また、その時、わたしたちはイエス様の誕生を真心で記念し、まことにその喜びを味わうことができるのです。今年のクリスマスを過ごすわたしたちの瞳が、変わることはない神様の愛の光で輝くことができると願いながら、信者の皆さんの家庭にクリスマスの恵みが満ち溢れるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



11月教会委員会報告

【司祭】

今年のテーマは「主イエス・キリストの愛にとどまりなさい」でした。皆さんもこの一年を振り返ってみましょう。死者の月である11月は、救霊のために祈りましょう。体の復活とともに私たちの魂が天国に行かれるよう魂を救う努力をしていきましょう。祈ること、霊的な読書をするのが大切です。

【今月の検討項目】

1. 11月27日（土）待降節からのミサに関して
 - *主日ミサスケジュール表（11/27～2/27）及び降誕祭・年末年始ミサスケジュールが確認されました。ミサ参加者がMAXで80名程度になるように地区を振り分けました。スケジュール表は別途郵送されました。
2. 2022年「年間計画表」作成
 - *とりあえずコロナの影響がない前提で来年度の教会行事案を作成することになりました。
3. 2022年度予算案
 - *財務委員長より2022年度の予算案が報告されました。
4. 信徒集会について
 - *昨年と同様なスケジュールで、進め方、開催日、開催方法等について常任委員会にて案を作成することになりました。

5. シノドス（世界代表司教会議）について（2023年開催）
* 10月に全世界の教区が2年間にわたる準備期間の歩みを始めました。具体的にはこれから皆で話し合っていきますが、まずは、信徒の皆様「シノドス」を理解していただくために、神父様にミサの中で説明してもらうことになりました。
6. その他
* 教会ホームページの刷新について：ホームページソフトのバージョンアップを行いました。これによりセキュリティ-の強化が図られました。コンテンツの改善は12月から実施する予定ですので、要望等がございましたらOさんに連絡をお願いします。
* FF暖房機が2台更新されることになりました。（老朽化のため）
* 庭の桜の木は老朽化により傷みが酷く、枯れている部分も多く、道路にせり出している枝は折れる可能性もあるため剪定します。根元に若木も育ってきているので、しばらく様子を見て来春に対応を決めることになりました。

【その他の検討・確認事項】

（委員会、信徒会）

① 典礼委員会

* 11月よりミサ中の聖歌隊が規模を縮小して復活しました。侍者の奉仕もすでに行われています。

② 教会学校

* 11月28日（日）午後2時の「青年と教会学校とともに捧げるミサ」の中で七五三のお祝いが行われます（11月7日現在申し込み8名）。

③ キリスト教講座

* 10月24日梅村司教様による堅信式が行われました。19名が堅信のお恵みをいただきました。

* 11月28日11時のミサの中で入門式が行われます。

④ 福祉委員会

* 福祉献金の配分について昨年度と同じように教会の一般財源から支出し、これをクリスマス献金で補うことになりました。各献金先の調査を行いました。具体的な金額については常任委員会にて案を作成することになりました。

⑤ 建物管理委員会

* 11月14日に馬小屋設置を行ないます（ヨゼフ会主体）

* クリスマスツリー設置は11月21日に行う予定です。

⑥ 共同墓地管理委員会

* 11月3日、上大岡共同墓地において追悼ミサが行われました。来年3月20日に四教会共同墓地合同委員会を二俣川で開催予定です。

⑦ マリア会

* ステラマリス帽子を編む会：帽子は238枚になりました。ご協力ありがとうございました。帽子のプレゼント袋に入れるタオル、石けん、日本的小物等の献品をお願いします。

⑧ 青年会

* 11月23日、東京カトリック神学院を訪問予定です。目的は神学生との交流。

* クリスマスに、祭壇の左右にステンドグラス風の装飾を設置することを検討中です。

⑨ インターファミリー

* 12月12日11時のミサ後、インターファミリーのミーティングを行います。

以上

祝福の青空の下… 堅信式 2021

10月24日、1年延期となっていた二俣川教会の堅信式がラファエル梅村昌弘司教様の司式で執り行われ、19名の信者の皆さんが堅信のお恵みをいただきました。今回から中学1年生以上を対象としたこともあり、中高生が14名、成人の方が5名でした。

(写真 1)

堅信式への準備は、2020年の春から始まりました。同年10月に予定していた堅信式は延期となり、2021年の初夏まで、堅信の勉強会の講師であるリーダーの皆さん(キリスト教講座や教会学校のリーダー)は堅信へ向けた勉強内容の学び直しをされ、じっくりと勉強会の準備をしてきました。2021年夏になり、いよいよ勉強会開始というところで、コロナの状況が悪化してしまい短期集中の勉強会となりました。そんな中、無事に堅信式を迎えることができ、ホッと胸を撫でおろしています。長い間、集まって共に学ぶ機会が制限されてきた中での勉強会は、より充実した喜びのあるものになったと感じています。

(写真 2)

例年のように、聖堂一杯に集った信徒の皆様に見届けていただく堅信式は叶わず、ミサ後のパーティーでのお祝いも出来ず、大変残念でした。しかし、皆様のお祈りに支えられ、ピンチをチャンスに！と、力を合わせて準備された堅信式となりました。多くの皆さんのご協力に感謝申し上げます。受堅者の皆さんも代父母の皆さんも堅信の意味を深く受け止め、より秘蹟を味わうことができる、研ぎ澄まされたお恵みの時となったと思います。

(写真 3)

(写真 4)

ミサの最後に受堅者を代表して高校生の二人から司教様へ挨拶がありました。それは司教様への感謝の言葉だけでなく、感想と決心が盛り込まれた力強い挨拶でした。堅信をもって信仰を確認し、あらたにされた受堅者の皆さんと“共に”、私たちも歩んで参りましょう！

堅信式準備会

堅信の秘跡のお恵みを受けて

－中高生より－

今日このお恵みをいただいて、いままでは、勉強会などで教えられてきたけど、次から今回ならったことを生かして、伝えていけるようにしたいです。 ペトロ H. K.

堅信を初めてやったし、見たので、すごくいい感じだったのでこれができるすごくうれしかったです。本当にできたことに感謝です。 ニコロオ F. N.

今日堅信式をしていただきありがとうございました。コロナ禍で教会なども行けないことが多かったけど、行ける時はできるだけ行けるようにがんばります。 アロイジオ T. Y.

今日堅信のおめぐみをいただいたことで、今までよりも信者として成長できた気がします。挨拶のように、発信側として少しでも貢献できるように過ごしていきたいと思います。 ヨハネ五島 T. T.

今まではただ何となく教会に連れて行かれ、ただ何となくお祈りをしていましたが、今回自分の意思で堅信を受けることを決め勉強していく中で少しずつ神様が望まれるように行動し、また頂いたお恵みに感謝し、その喜びを分かち合おうと思えるようになりました。実際に堅信を受けて、まだ、その通り生活できるか分かりませんが、カトリック信者の一員としてイエス様に倣うことができればと思います。 パオラ・フランチェスカ K. S.

久しぶりにみんなに会えてよかったです。堅信のお恵みを受けられて良かったです。 パウロ M. Y.

これで7つの秘跡のうち、3つただけて良かったです。目標どおり全ての勉強会に参加することができて良かったのと、勉強会の中でお祈りや聖書の大切さを改めて知ることができて良かったです。これからもお祈りを大切にしていきたいです。 マルチノ・デ・ポレス M. A.

堅信式を受けて私は神様に一段階近づけたと思う。堅信は受けないなと言う気持ちだけじゃ受けられない大切なものだと思う。なんで受けないのか、とか受けることで自分に何ができるのか、などの理由を考えてから堅信を受けることが大事。勉強会では当たり前なことも話してたがその深いところまで話してくれて新しいことを知れてとてもよかった。堅信を受けたことが凄いことで周りの人達がいなければここまで行けなかったと思う。ほんとに感謝しています。 ダニエル O. Y.

ミサの大事さを改めて感じたので、教会にちゃんと行くようにしたいです。 マリア・アスタ O. S.

去年から、続いたコロナ禍で教会に集まることが簡単ではなくなり、毎週会っていた友達にも会えず、オンラインでつながる日々が続きました。その中で、堅信を受ける私たちのために講座を開いて下さった二俣川教会の皆さんと姜神父様、部活や塾がある私たちや仕事などがある大人の方にも合わせて毎週土曜日と日曜日の2日講座でたくさんの方々に教えて下さった勉強会のリーダーの方々、代父母になって下さった方々、堅信を授かることに賛成し、後押ししてくれた家族にも感謝します。集まることがこれ程難しいことはこの先きっとないと思います。そのような状況下で堅信の秘跡を受けたことは私たちにとってとても心に残り、そのありがたさもきっとより多く感じられたと思います。その大切さを心に留めて、毎日の生活で活かし、神様に教えられたように隣の人にそっと寄り添える人になれたらと思います。 マリア・セシリア T. A.

－大人の方々より－

「堅信式を終えて」

この度は豊かな堅信式に与らせて頂き、厚く御礼申し上げます。受堅して、神様は私に沢山のお恵みを下さっていることを改めて実感しました。コロナ禍で教会に行けずに辛かったです、「辛さを乗り越えることも堅信の準備ですよ」と神様が教えて下さったのだということにも気付かせて頂きました。

これからは頂いたお恵みを力に、周りの人たちに神様の愛をお伝えしていきたいです。

マグダラのマリア S. S.

この度は、リーダーの方々、神父様はじめ教会のみなさんに支えていただき、無事に堅信の秘跡を受けられたことに感謝いたします。幼い頃より、お世話になった二俣川教会で、堅信式を迎えられたことをとても嬉しく思います。これからも、イエス様と共に信仰の道を歩んでいけるよう努めていきたいです。

アシジのフランシスコ M. K.

私は、2018年の復活徹夜祭にて、プロテスタントからカトリックへと改宗した者でございます。1983年にプロテスタントで「水の洗礼」を受けてから38年後に、こうしてイエス様の奇しきお導きによって、梅村司教様より「堅信の秘蹟」を授けて頂いたことを、心から主に感謝いたしております。

堅信の秘蹟によって「聖霊の注ぎ」を受けましたので、聖霊の助けによって、これまで以上に、神様を愛し、隣人を愛する、イエス様の「愛の掟」に従い、残された人生の時間を歩んでまいりたく思います。

ところで、この「愛の掟」は、やや抽象的で難解な言葉であります。姜神父様が先日の主日説教にて、「目に見える隣人を愛することができなくて、目に見えない神様を愛することはできません。隣人を愛することによって、神様への愛を捧げるのです。」と、具体的に熱く語られ、ハッ！と目の覚める思いが致しました。

私たちすべてのために、ご愛のゆえに、あの十字架で、御血を流されて罪の償いを成し遂げて下さったイエス様を見上げ、その主のご愛に「応答」し、聖霊に助けられながら、隣人を心から愛し、慈しみ、そして親切な言葉と行ないを實踐してまいりたく思います。その実践によってこそ、神様への愛を捧げることができるのでしょう。

残された人生の時間、まだイエス様と出会っていない隣人をも愛し、慈しみ、「イエス様の十字架による罪の赦しと永遠の命への招き」、この朽ちることのない聖なる福音を「証し」し、宣べ伝えてまいりたく、堅信の秘蹟をとおして、堅く決意させられました。「すべて疲れた者、重荷を負う者は、わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（マタイ 11：28）

最後にこの場をお借りして、毎週の主日ミサと週日のミサで「福音の本質」を分かりやすく教えて下さる姜神父様に、篤く御礼申しあげたく思います。また、入門講座以来お世話になっているマチアス・K. 様、代父のミカエル・T. 様、事務所の方々を始め、二俣川教会のすべての兄弟姉妹に心から感謝申しあげます。今後とも、よろしくご指導ご鞭撻たまわりますよう、よろしくお願い申しあげます。

福音宣教者のフィリポ W. H.



【編集後記】 堅信の秘跡の受堅者の皆様にお祝い申し上げます。「二十六聖人」の誌面で語られる受堅者の方々の信者としての自覚の目覚め、信仰を力強く証ししようとする決意に感銘しました。「二十六聖人」は教会誌として、それぞれの思い、それぞれのことばを共有できる重要な役割を果たしていると改めて認識しました。寄稿者の方々のご協力に感謝申し上げます。

(S.O. 記)